



横浜市アジア事務所長  
品川 勝史

タイは大気中への二酸化炭素排出量削減においてASEANのリーダーとなるべく、カーボンニュートラル政策を推進している。8月に就任したセター首相は、翌9月の気候変動対策に関する首脳会議で2050年までのカーボンニュートラル表現

を目指し、再生可能エネルギーの利用を推進する声明を発表。タイ国内でも脱炭素社会実現に向け多くの関連イベントが開かれている。

10月5日、タイ・バンコクのクイーンシリキットナショナルコンベンションセンターでタイ

し、2千人以上が参加した。セター首相やチャチャートバンコク都知事も登壇し、関心の高さがうかがえた。

横浜市は13年にバンコク都と環境分野の技術協力にかかる覚書を締結し、バンコク都の気候変動マスタープラン策定などに

## 脱炭素へ都市間連携

商工会議所やサイアム・セメント・グループ等主催のESG Symposium 2023が開催された。持続可能な開発やESG(環境・社会・ガバナンス)の重要性に対する認識を高め、国内外の多様な協力ネットワークの強化や低炭素社会への加速を発信することを目的と

協力、脱炭素に向けた都市間連携を推進している。10月18日には3回目となる横浜市とバンコク都との都市間連携脱炭素ワークショップを開催。バンコク都から、エネルギーアクションプランの素案や50年のカーボンニュートラルに向けたロードマップが紹介された。横浜市は、



横浜市とバンコク都との都市間連携脱炭素ワークショップの様子

国より脱炭素先行地域に指定されている、などとみらい21の取り組みを紹介。バンコク都知事の開会あいさつでは、両都市の取り組みの学び合いが重要だとの言及もあった。ビジネスセッションではマクニカ(横浜市港北区)など市内に本社・R&D機能を置く4社が登壇し、建物やモビリティに関する脱炭素

ソリューションを紹介。ハイブリッド形式で開催されたワークショップには両国から約270人が参加し、現地会場では参加者同士の活発な交流が見られた。

11月14、15日に、YISHIP 2023が開催された。その中で第12回アジア・スマートシティ会議が約4年ぶりの対面形式でパシフィコ横浜ノースにて開催。海外から横浜に多くの人が集う国際会議にバンコク都知事も来日。横浜市長とともにアジアの脱炭素化に向けた共同宣言を行った。

本事務所をタイ・バンコクに設置し1年が過ぎた。ますます加速する都市間連携のネットワークを拡大し、市内企業に還元していきたい。